

令和6年度自己評価表

1. 学校の教育目標

新潟こども医療専門学校は、学校法人新潟高度情報学園の組織の中の1つであり、その教育理念は学校教育法に基づき「商業実務および教育・社会福祉分野において専門的な知識・技術と合わせ、教養人格度の高い道義・礼節・作法をも身に付けた人材の育成」を目的とした教育機関である。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

こども未来学科・・・ 1年次は学校の基本的なルールを守る
2年次は社会人としての礼儀・マナーの実践
3年次は希望進路に向けた活動に意欲的に取り組むことができる
4年次は学校の模範となる学生 希望進路への就職の実現

こども発達学科・・・ 1年次は学生マニュアルの記載事項を遵守し、学生としてふさわしい生活、学習習慣の基礎を培う。
2年次は1年次に培った基礎をもとに、実習経験を積み、より実践的な学びを深める。
3年次は就職年次として、社会人としてふさわしい道義、礼節、マナーを備えた人材を目指す。学習、実習においては、自分の課題を見つめ、自らすすんで学びを深める姿勢を養う。

こども学科・・・ 1年次は学校生活の基本的なマナーを身に付ける（挨拶・清掃・提出物・自己管理）
2年次は目的意識を持った就職活動と実現

医療事務総合学科・・・1年次は①あいさつ・清掃・環境に対する意識向上②納期を守る③礼儀・マナーを身につける④目配り、気配りを心掛ける
2年次は①あいさつ・清掃・環境に対する積極性②納期厳守のための余裕を持った行動③社会人として礼儀・マナーを実践④目配り、気配りを心掛ける

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④ 3 2 1
・ 学校における職業教育の特色は何か	④ 3 2 1
・ 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4 ③ 2 1
・ 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に 周知されているか	④ 3 2 1
・ 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに 向けて方向づけられているか	4 ③ 2 1

① 課題

- a. 普及が加速している I C T 化への対応面にまだ遅れている所がある。
- b. 学校の将来構想において、社会及び業界が求めている保育士の養成及びニーズに応えきれていない側面がある。

② 今後の改善方策

- a. タブレットやこども園で利用している管理ソフトの導入を図り、I C T 化への対応力や専門知識・技術の修得を今後も継続して強化していく。姉妹校に I C T 系専門教育職員がいるので、教職員への内部研修等を行い、充実を図る。
- b. こども系各学科では、保育教諭（幼・保両免）の育成に重点をおいてきたが、社会全体が求めている保育士不足、その養成に幅広く貢献できるよう、こども学科に保育士コースを新設し、その期待に応えていく。また、社会環境の変化に適合できるよう学校の将来構想の見直しを図る。

③ 特記事項

特になし

(2) . 学校運営

評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 目的等に沿った運営方針が策定されているか	4 3 2 1
・ 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4 3 2 1
・ 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、 有効に機能しているか	4 3 2 1
・ 人事、給与に関する規程等は整備されているか	4 3 2 1
・ 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4 3 2 1
・ 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4 3 2 1
・ 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4 3 2 1
・ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4 3 2 1

① 課題

入学者数（在校生数）の減少により、開校当時からの運営方針に齟齬が生じ、健全な学校運営を目指すための運営体制、組織整備、事業計画等の見直しが求められている。

② 今後の改善方策

合同授業、複数クラス担任制の導入を取り入れると同時に、教育の質を落とすことなく効率的で健全な学校運営を行うための学科編成や仕組み、カリキュラム等の見直しを図り、その確立を目指す。

また、新設学科、新コース等の検討も視野にいれていく。

③ 特記事項

特になし

(3-1) . 教育活動 (こども未来学科)

評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4 3 2 1
・ 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に 対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4 3 2 1
・ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4 3 2 1
・ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の 工夫・開発などが実施されているか	4 3 2 1
・ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・ 見直し等が行われているか	4 3 2 1
・ 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、 実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4 3 2 1
・ 授業評価の実施・評価体制はあるか	4 3 2 1
・ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4 3 2 1
・ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4 3 2 1
・ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4 3 2 1
・ 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保 しているか	4 3 2 1
・ 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保 するなどマネジメントが行われているか	4 3 2 1
・ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力 育成など資質向上のための取組が行われているか	4 3 2 1
・ 職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 3 2 1

① 課題

- a. 職業教育として小学校の学習支援ボランティアや放課後ボランティアを実施しているが、年度の後半になると参加人数が減る傾向にある。背景には授業の課題が多くなった際に、ボランティアを一時休止することで、その後も控えたままになることが挙げられる。年間を通し取り組めるようにすることが課題である。
- b. 冬に卒業生の講話を実施したが、平日の開催のため小学校教諭・養護教諭として勤務する卒業生のみの参加となった。幼児教育に携わる卒業生は、平日来校することが難しい現状にあるが、職業教育に偏りが出てしまうため、その解消が課題である。

② 今後の改善方策

- a. ボランティアの実践について意義をより理解できる教育をHR等で実践する。
- b. 年度初めに卒業生の講話の計画を立て、多くの職種の卒業生と関わりを持つことで様々な職種の理解につなげる。

③ 特記事項

〔 特になし 〕

(3-2) . 教育活動 (こども発達学科)

評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1
・ 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に 対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④ 3 2 1
・ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1
・ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の 工夫・開発などが実施されているか	④ 3 2 1
・ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・ 見直し等が行われているか	④ 3 2 1
・ 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、 実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4 ③ 2 1
・ 授業評価の実施・評価体制はあるか	④ 3 2 1
・ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	④ 3 2 1
・ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1
・ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④ 3 2 1
・ 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保 しているか	4 ③ 2 1
・ 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保 するなどマネジメントが行われているか	4 ③ 2 1
・ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力 育成など資質向上のための取組が行われているか	4 ③ 2 1
・ 職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 ③ 2 1

① 課題

〔 外部関係者、外部機関からの評価や助言を教育活動に積極的に取り入れる。
研修や学会参加を通して教員の指導力向上を図るとともに、教員自身の知見を常にアップデート
する。 〕

② 今後の改善方策

〔 引き続き外部機関との連携を密にし、より一層実践的な職業教育の充実を図る。
教員研修のあり方について、外部の研修や学会のみならず学内での研修を充実させるなど、
教員の指導力向上のための取り組みを強化する。 〕

③ 特記事項

特になし

(3-3) . 教育活動 (こども学科)

評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4 3 2 1
・ 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に 対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4 3 2 1
・ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4 3 2 1
・ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の 工夫・開発などが実施されているか	4 3 2 1
・ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・ 見直し等が行われているか	4 3 2 1
・ 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、 実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4 3 2 1
・ 授業評価の実施・評価体制はあるか	4 3 2 1
・ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4 3 2 1
・ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4 3 2 1
・ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4 3 2 1
・ 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保 しているか	4 3 2 1
・ 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保 するなどマネジメントが行われているか	4 3 2 1
・ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力 育成など資質向上のための取組が行われているか	4 3 2 1
・ 職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 3 2 1

① 課題

- a. 課題であったカリキュラムの見直しをおこない今年度から新カリキュラムでの授業となった。授業数を減らしたことで、1年生の負担は軽減し、空き時間を活用し課題やレポートに取り組む姿が見られた。来年度からは保育者として必要な知識・技術が身についているか確認が必要となる。
- b. MOS検定の資格取得率が下がっている。

② 今後の改善方策

- a. 編成しなおしたカリキュラムにつて、さまざまな知識・技術を習得するだけでなく、学生の性質・学力・意欲に沿っているか。また、学修の定着が図られているか、学科のみならず、教科担当間で協議する。
- b. MOS検定取得の意義をしっかりと学生に伝える。さらに、担当教員と担任と連携を密にし、クラスや学生の特性にあった環境を構成できるようにする。

③ 特記事項

授業アンケートを改善し教育活動の充実を図るだけでなく、それをもとに改善策を考え、学修意欲を高められるようにする。さらに学生生活の満足度アンケートを実施する等の取り組みを行い、学生の困り感を把握し、学生生活の充実を図る。

(3 - 4) . 教育活動 (医療事務総合学科)

評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1
・ 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④ 3 2 1
・ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1
・ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4 ③ 2 1
・ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4 ③ 2 1
・ 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4 ③ 2 1
・ 授業評価の実施・評価体制はあるか	④ 3 2 1
・ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4 ③ 2 1
・ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1
・ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④ 3 2 1
・ 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④ 3 2 1
・ 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4 ③ 2 1
・ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4 ③ 2 1
・ 職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 3 ② 1

① 課題

クラス内での学力差が大きく、全体的な進度に影響がでるため授業外で個別対応を必要とするケースが目立った。

② 今後の改善方策

理解に時間がかかる学生に対しての個別対応をすることを前提として、全体的な進度は緩めずにマンツーマンでのフォローをしていく。

③ 特記事項

特になし

(4-1) . 学修成果 (こども未来学科)

評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・ 就職率の向上が図られているか	4	3	2	1
・ 資格取得率の向上が図られているか	4	3	2	1
・ 退学率の低減が図られているか	4	3	2	1
・ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	3	2	1
・ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4	3	2	1

① 課題

- ・ 今年度教員採用試験は小学校教諭受験者の一次試験通過者が4名、そのうち1名が辞退し、残りの3名全員が二次試験を通過し本採用に至ったが、一方で養護教諭は今年度も一次通過は叶わなかった。養護教諭の一次試験対策を学校の授業の課題と並行して効率よく学習を進められるようにすることが課題である。
- ・ 今年度より新潟県及び新潟市では小学校希望者に二度受験の機会を設けているが、小学校のみに与えられた早期の受験日程では試験内容がこれまでと異なり、対策が不十分で一次通過することができなかったため、今後は二度の受験の機会を生かせるよう対策をとることが課題である。
- ・ 小学校の採用試験はその教員の不足の現状から実施方法や内容が都度変更になっているため、県内外含め情報収集に努め、早い段階から受験計画を立て準備することが課題である。
- ・ 幼児教育及び学校教育、障害者支援、その他の職種等クラス内で就職希望先が多岐にわたるため、クラスへの一斉指導ではなく個人のニーズに合わせたきめ細やかな対応が求められることが課題である。

② 今後の改善方策

就職支援では、個別の相談支援の時間を設ける。
公務員受験希望者とは受験スケジュールを一緒に計画し、学習の進捗状況を共有する。
授業と教員採用試験内容が結びつくよう授業内容を工夫する。

③ 特記事項

特になし。

(4-2) . 学修成果 (こども発達学科)

評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・ 就職率の向上が図られているか	④	3	2	1
・ 資格取得率の向上が図られているか	④	3	2	1
・ 退学率の低減が図られているか	4	③	2	1
・ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	④	3	2	1
・ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4	③	2	1

① 課題

人間関係の悩み、学力不振、体調不良等から退学を選択する学生が数名いた。
学校での教育活動が卒業後のキャリア形成にどのように活かされるかという観点から、
教育内容をより深く吟味する。

② 今後の改善方策

退学を考えている学生の心の機微に気づけるよう、担任と教科担当が連携しながら学生支援する。
卒業生が学校での学びをどのように活かして職務に取り組んでいるのか把握するとともに、
卒業生から保育現場の実情を聞き取りすることを通して、より一層現在の保育現場に合った
教育を提供できるよう努める。

③ 特記事項

特になし

(4-3) . 学修成果 (こども学科)

評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・ 就職率の向上が図られているか	④	3	2	1
・ 資格取得率の向上が図られているか	4	③	2	1
・ 退学率の低減が図られているか	④	3	2	1
・ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	③	2	1
・ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4	③	2	1

① 課題

昨年度の反省を踏まえ、学生への迅速な対応を心掛けたり、夏休み前にガイダンスを行ったりした。
学校で安心できる居場所づくりを行うために、入学してすぐに名刺交換会などをおこなったが、さらに
早い時期の協働する活動により、仲間意識を高める必要がある。

② 今後の改善方策

- ・クラス内での居場所が作れるよう、クラスの人と関わる機会を増やすことで、さまざまなグループ
で自分の居場所ができるように時間割を調整する。
- ・多様な問題を抱えた学生が年々増加しているため、学生支援室の設置や専門機関との連携を深めて
いく。

③ 特記事項

今年度も、1年次前期に学生とガイダンスを行ったり、学科内で連携したりし、学生の変化や困り
ごとに早急に対応したが、個別に支援の必要な学生が年々増えてきている。担任だけでは対応でき
ない事案も多々発生しているため、個別のニーズを把握し対応できるような体制を整える必要がある。

(4 - 4) . 学修成果(医療事務総合学科)

評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・ 就職率の向上が図られているか	4	③	2	1
・ 資格取得率の向上が図られているか	④	3	2	1
・ 退学率の低減が図られているか	④	3	2	1
・ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	④	3	2	1
・ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に 活用されているか。	4	③	2	1

① 課題

ほとんどの学生が医療事務分野の就職を希望する中、希望する地区での求人の数が
乏しく、応募が難しい傾向がある。

② 今後の改善方策

就職活動の時期、エリアを中心に本人希望より少し範囲を広げて求人を検索し、実際の通勤や
仕事内容に対する不安を解消した上で応募できる範囲を広げて就職活動を進めている。

③ 特記事項

特になし

(5) . 学生支援

評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・ 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
・ 学生相談に関する体制は整備されているか	4	3	2	1
・ 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	3	2	1
・ 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	3	2	1
・ 課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
・ 学生の生活環境への支援は行われているか	4	3	2	1
・ 保護者と適切に連携しているか	4	3	2	1
・ 卒業生への支援体制はあるか	4	3	2	1
・ 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	3	2	1
・ 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	3	2	1

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

③ 特記事項

新潟県公立学校教員採用選考検査の現役合格者＝2名、
新潟市立学校教員採用選考検査の現役合格＝1名
公立保育園保育士合格＝2名 いずれも正規

(6－1) . 教育環境（こども未来学科）

評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・ 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	3	2	1
・ 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	3	2	1
・ 防災に対する体制は整備されているか	4	3	2	1

① 課題

養護教諭免許取得の際の臨床実習先が1施設のみとなっており、より様々な地域や特色を持った実習先を確保することが課題である。

② 今後の改善方策

医療機関に積極的に働きかけ、養護教諭免許取得のための臨床実習の意義を理解していただけるよう努める。

③ 特記事項

〔 特になし 〕

(6-2) . 教育環境 (こども発達学科)

評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・ 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	3	2	1
・ 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	3	2	1
・ 防災に対する体制は整備されているか	4	3	2	1

① 課題

〔 運動に関する授業をおこなうための設備、空調や照明等の環境設定が充分とは言えない。
防災についての意識づけと知識が充分ではない。 〕

② 今後の改善方策

〔 引き続き、多様な教育活動を展開できるようにするための施設・設備の整備に努める。
次年度は防災教育をさらに強化する。避難訓練のあり方、ねらいや進め方について再考し、
学生にとって一層学びのあるものにする。 〕

③ 特記事項

〔 特になし 〕

(6-3) . 教育環境 (こども学科)

評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・ 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	3	2	1
・ 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	3	2	1
・ 防災に対する体制は整備されているか	4	3	2	1

① 課題

〔 a. 今年度こどもっと実習の時間を午後までに戻したことで、園生活の様子の一日の流れや、午後からの子どもたちの様子や保育者の仕事についての理解を深めることができた。
b. 今年度は校舎解体の関係上避難訓練が未だ行われていないため、一日も早く行うようにする必要がある。 〕

② 今後の改善方策

- a. 実習担当者と担任、他教科教員との話し合いの時間をきちんと確保し、実習での学びと理論を一致させ、次年度の計画を作成する。
- b. 避難経路の確認等は重要なため、来年度は早い時期に行えるよう、今年度からしっかりと計画を立て実行できるようにする。

③ 特記事項

特になし

(6-4) . 教育環境 (医療事務総合学科)

評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・ 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④	3	2	1
・ 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	③	2	1
・ 防災に対する体制は整備されているか	4	③	2	1

① 課題

コロナ以降久しぶりに医療機関実習を再開したが、依頼側と受け入れ側とで感染対策などで認識のずれが感じられた。

② 今後の改善方策

ほとんどの医療機関で実習前の行動制限などは求めていなかったが、学生にはアルバイトなどを制限し実習に赴かせたが必要ないとする医療機関が多かった。医療機関のご迷惑とならぬよう制限が求められていなくとも感染対策した状態で実習に臨むよう指導を続ける。

③ 特記事項

特になし

(7) . 学生の受入れ募集

評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・ 学生募集活動は、適正に行われているか	4	③	2	1
・ 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	③	2	1
・ 学納金は妥当なものとなっているか	4	③	2	1

① 課題

対象者の減少や分野人気の変動、競合激化など、年々状況が厳しくなっている中で、マンパワーが足りていないと感じる。人手を増やし、高校へのアプローチ、さらなる外部への情報発信（頻度、内容）等、やりたいが手が回らなかった・後回しにしていたことに着手し、募集活動の充実を図りたい。

また、競合校との差異が少ない（以前に比べ小さくなってきている）。どう差別化を図ると魅力を伝えられるのか試行錯誤中である。

② 今後の改善方策

- ・隣県や高校1年生への積極的な露出を図り、認知を広げる
- ・特徴づけや取りこぼし防止のため、新しい科目（デジタル保育（仮））や新コース（保育士コースにこどもjoyとこどもcareの2プログラム）を設定
- ・高校に対し、その高校出身者の情報提供することで繋がりを深めるとともに、当校の教育アピールにつなげたい

③ 特記事項

他校オープンキャンパス参加の高校生より、こども医療は校舎が古いというような声が挙がっていると耳にした。主要競合校の中で当校が駅から一番遠く、校舎も一番古い。（こども分野の中で現在好調な）国際こども・福祉カレッジと比べ施設料は2倍徴収しているが、校舎の古さや設備の不調が度々見受けられる状況は望ましくないと感じる。施設料を下げるなど、検討・見直しが必要ではないか。（施設料を下げた場合、その分を授業料に上乗せしても良いのではないか。）

（8）．財務

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・ 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	③	2	1
・ 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1
・ 財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1
・ 財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1

① 課題

在校生数の減少による収入の減少

② 今後の改善方策

- ・ 学生募集の強化等
- ・ 学科内容・構成の見直し等

③ 特記事項

特になし

(9) . 法令等の遵守

評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・ 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	③	2	1
・ 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	③	2	1
・ 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4	③	2	1
・ 自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1

① 課題

- a. 個人情報の取扱いに関する規程を策定しているが、有事の対応を細部まで検討する必要がある。
- b. 寄附行為改正等の対応を適切に実施し、より一層の法令順守、ガバナンス強化に努める必要がある。

② 今後の改善方策

- a. 個人情報漏洩に係る業務過誤賠償責任保険への加入を継続する。
- b. また、ガバナンス強化のため、第三者の目線を取り入れた監視・評価体制を構築する。

③ 特記事項

特になし

(10) . 社会貢献・地域貢献

評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・ 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	③	2	1
・ 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	③	2	1
・ 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	③	2	1

① 課題

周知は行っているが、コロナ禍の影響から案内も減少し、学校全体がボランティア活動と疎遠になっている。一方、学生数の減少に伴い多く希望者が見込めないことから、学生にとって有益であると判断された活動には、学校から参加を促したものもあった。

② 今後の改善方策

学校から参加を促した活動への参加者の満足度と成果は大きかったものと感じられるため、周知だけでなくとどまらず、今後も積極的に参加を促し、ボランティア活動に対する意識啓発を行いたい。

③ 特記事項

学校あげての計3日間の「こども祭り」の開催（園児や地域の子育て家庭が来場）、未来学科による万代長嶺小学校「ふれあいスクール事業」への参加、発達・未来学科による人形劇公演など、学びの成果を活かした学生の地域貢献は積極的に行われたように思う。

(11) . 国際交流（必要に応じて）

評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・ 留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	4	3	2	1
・ 留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4	3	2	1
・ 留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	4	3	2	1
・ 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4	3	2	1

① 課題

② 今後の改善方策

③ 特記事項